

函館短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 野又学園
理事長 野又 肇
学 長 上平 幸好
A L O 齊藤 恭平
開設年月日 昭和 28 年 4 月 1 日
所 在 地 北海道函館市高丘町 52 - 1

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
食物栄養		100
	合 計	100

専攻科および定員

なし

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

函館短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

函館短期大学の設置母体である学校法人野又学園は、野又貞夫氏により昭和 13 年に創立され、今日では短期大学の他、大学、専門学校、高等学校、幼稚園等を有する学校法人である。当該短期大学は、昭和 28 年に設置された函館商科短期大学を前身とする、食物栄養学科からなる単科の短期大学で、昭和 38 年度に栄養士養成施設として発足している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、創設以来、人間教育と職業教育の融合を目指して、学園訓「報恩感謝・常識涵養・実践躬行」を定めており、「教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校の基礎の上に、主として栄養に関する実際的な専門の学芸を教授研究し、かつ北海道開発に役立つ地域的教育を施し、もって人類社会の福祉に貢献し得る、有能かつ教養のある社会人育成」を目的としている。

教育の内容、教育課程として、学園訓に立脚したカリキュラムが展開されており、職業教育を支える専門科目群、「常識涵養」を旨とした基礎教育科目群に相当の腐心をしている。栄養士養成のための専門教育のほか、基礎教育科目、教職及び栄養士のほか複数の資格取得に必要な科目等、学生のニーズに即応した編成がなされている。平成 13 年度より学生に対して、「授業内容に関するアンケート」を実施している。

学生支援としては、入学時、進級時にオリエンテーションを行い、また、学習上の問題、悩みを持つ学生へは教養ゼミナールを通してカウンセリング等に努めている。進路支援に関しては、就職指導委員会を組織し、就職指導部長のもと就職指導課が、就職・進学窓口となり対応している。

専任教員の多くは、個人差はあるが若手を中心に研究活動、社会活動に精励している。

紀要は毎年発刊されている。平成 17 年度には、「健康生活科学研究所」の活動予算も確保され、研究活動の活性化に役立っている。また、研究費(含む研究旅費)は併設四年制大学の支給基準に準じて支給されている。研究用機器備品については、別途制度化されている。

社会的活動としては、「健康生活科学研究所」において、地域の食生活を始め、福祉、健康、コミュニケーションに関する研究を促進している。平成 8 年に設立したフィットネスセンターの一般市民への開放、同センターを活用した各種講座を開講して、地域住民の健康増進とコミュニケーションの場の提供に取り組んでいる。

理事会、評議員会等は規程に沿って行われ、監事業務も寄附行為に則って適切に機能している。教授会は学則に基づき適切に開催、運営されている。事務処理規程等も整備され、決済処理、防災処理、事務処理等についてよく検討されており、学園全体の情報ネットワーク化による効率化への努力がなされている。

中・長期の財政計画については、将来に備えて目的別の特定資金への繰り入れが積極的に行われている。学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画、予算決定、各部門への伝達等も適切に行われている。教育研究費比率は適切な水準を上回っている。また、施設設備の管理については、図書管理の内規、消耗品及び貯蔵品管理の内規、施設設備の管理についての内規等を定め、適正な運用に努めている。

自己点検・評価の実施体制としては、規程及び委員会を整備し、平成 13 年度から毎年、自己点検・評価を行っている。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 教養ゼミナール(通年1単位)を開講し、担当教員と学生との人間的接触の機会を設けて相談に応じクラス担任、オフィスアワーとしての機能を持たせている。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 平成 8 年にフィットネスセンターを開設し、栄養学を中心とした教育のみならず、健康科学と結びついた教育・研究活動を進めている。運営に当たっては、職員を昼夜交代でそれぞれ 2 名配置している。この施設は学生だけではなく、地域住民にも健康運動施設として開放されている。公開講座は平成 16 年度に 7 講座開設している。

評価領域 学生支援

- ・ 入学案内書等に「求められる学生像」として、5 つのアドミッション・ポリシーを掲げ、受験生等に周知する方法をとっている。

- ・ 4 コース(調理栄養・福祉栄養・スポーツ栄養・教職栄養)で取得できる資格を中心に教育内容が理解しやすい資料を作成する等就職支援を心掛けている。
- ・ 全教職員が 10 社程度ずつ受け持ち、函館市及び周辺、首都圏、東北地方の企業を訪問し就職先の開拓に当たっている。
- ・ 平成 16 年度には障害者 1 名を受け入れ、授業における学習支援を行った。
- ・ 「『大学・短大』としてはわが国で最初の全面禁煙運動実施校」として、「空気がおいしい」をキャッチフレーズに環境整備にも配慮している。また、健康診断の受診率は 100% である。

評価領域 研究

- ・ 平成 15 年度に学長が教育と研究は表裏一体のものとの考え方を教授会に示し、教員の研究奨励に努めており、文部科学省の科学研究費補助金・厚生労働省の研究助成金を受ける等、教員の研究意欲も高まりつつある。
- ・ 栄養士養成校であるが、スポーツ栄養、健康科学を結びつけた研究活動の推進のため、「健康生活科学研究所」を設置する等、ユニークな取り組みを行っている。

評価領域 社会的活動

- ・ 社会福祉団体との連携による訪問介護員養成講座の開催、ライオンズクラブ活動への協力、外国人留学生に対する日本料理の紹介と調理指導を行っている。
- ・ 学生の社会活動として、例年、春秋 2 回の献血活動への協力(毎回平均 60 数名)、函館市の実施する各種イベントへの協力、教育委員会の要請による就学時検診におけるボランティア活動のほか、教員引率による課外活動については単位認定を行っている。
- ・ 温水プール、フィットネスセンターの設置等地域住民の利用も考えた取り組みが行われている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

- ・ 文字の大きさ、記載内容の統一化、講義内容の充実など、学生が見やすい講義要項の作成が望まれる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 図書館の改善・充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし